

1 自己評価

I 評価結果（別紙参照）

II 分析・改善方策

学校経営目標に基づいた目標管理が具体的に行えるよう、全ての部署が校長の定めた本年度の学校経営目標「『至誠剛健』夢を育む倉商 社会とつながり地域の未来を創造する学校」の達成に向け、事前に「数字で見る倉商」と名付けた校内の様々な数値データをまとめた資料および学校評価アンケートの結果をもとに現状分析を行い、問題点や改善点を明示した。その分析を踏まえ、学校経営目標に基づいて各部、室、学年、商業科他の目標やその達成基準、具体的取組を可視化するとともに、共通理解を図った。それらを踏まえ、直面する課題解決のために各部署が協力して教育活動に取り組んだ。

「最終達成状況と評価」においては、評価の根拠を可能な限り数値化して経年比較を行うと共に、校内企画委員会、職員会議において年間総括を行い、1年間の取組の成果と課題を全教職員で共有した。

生徒・保護者が安心でき、教職員が生き生きと働くことができる学校づくりを目指し、「今後の課題」として新たな取組や改善すべき点を明確にし、次年度に向けての円滑な目標設定とその実施、改善が担当部署ごとにできるように配慮した。

2 学校関係者評価委員名

山下 学（本校PTA会長）

前岡 修允（倉敷観光コンベンションビューロー課長）

河野 秀樹（岡山県立倉敷商業高等学校 同窓会役員）

内田 太（岡山商科大学 講師、本校元校長）

3 学校関係者評価

計3回学校評議員会及び学校関係者評価委員会を実施し、各委員から標記学校経営目標の取組に対して最終的な評価と活発な意見や改善案をいただいた。以下にその内容を示す。

学習指導については、検定取得に関して、特に「3種目1級取得数日本一」は今後も目標にしてもらいたいとの声をいただいた。明確な目標設定であり、本校を志望する保護者、生徒も検定取得が理由の一つとなっている。半面、合格率を上げるために「教えすぎ」、「詰め込みすぎ」になり、考える力が低下し、本当の力の欠如につながってはいないかと危惧された。家庭学習の定着が課題として取り上げられたが、塾をはじめ校外での学習時間の有無を調査する必要性を指摘された。

生徒指導については、授業を参観することで、生徒が非常に落ち着いて学校生活を送っていることが認識できた。校則の見直しを図り、教職員の生徒指導に対する共通認識を図ることは難しいことであったと思われるが、概ね良好であるとの評価をいただいた。また、進路指導に関しては、進学、就職においても高い評価をしていただいた。教職員の働き方に関しては、「残業時間の削減は急務の課題として取り組んでもらいたい」「長時間勤務については管理職の働きかけが重要」といった多くの意見をいただいた。働き方が改善され教員のやる気が向上し生徒へ還元される好循環を期待している。教育相談を含めた生徒支援に対しても、実際に解決に至った事例を知らせることで抑止力にもつながり、いじめも含め未然防止が重要であるとの意見もいただいた。

最後に「倉商の教育レベルが一段階上がったような気がする」「保護者が通わせたい学校」といった評価をいただいた。さらなる飛躍を遂げるべく今年度いただいた有用なご指摘、ご助言を次年度以降に活かしていきたい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- ・今年度の学校経営目標に基づいた取組の成果と課題を職員に周知し、さらなる改善を目指して設定された目標の意義や目的を職員間で共有する。また、生徒の成長と教職員の働きやすさを両立させる学校経営改善の方針を進めていく。

- ・地域社会へ貢献できる人材の育成を目指すとともに、社会に出ても通用するよう、主体的に考えて行動し、多様な意見を受け入れられる力、自ら考えながら対話できる力を身に付けさせる。

- ・今後、生徒募集や地域への倉商の魅力を発信していく上で、実業高校（商業高校）として、専門性の深化が問われてくる。業務の精選（断捨離）、仕事量の適正化を図り、教師の指導力向上につなげる必要性がある。